

データ活用等のデジタル化の推進による社会課題・地域課題解決のための実証型研究開発（第3回）

地上と地底のデータ連携による都市型水害リスクのリアルタイムモニタリング基盤の研究開発

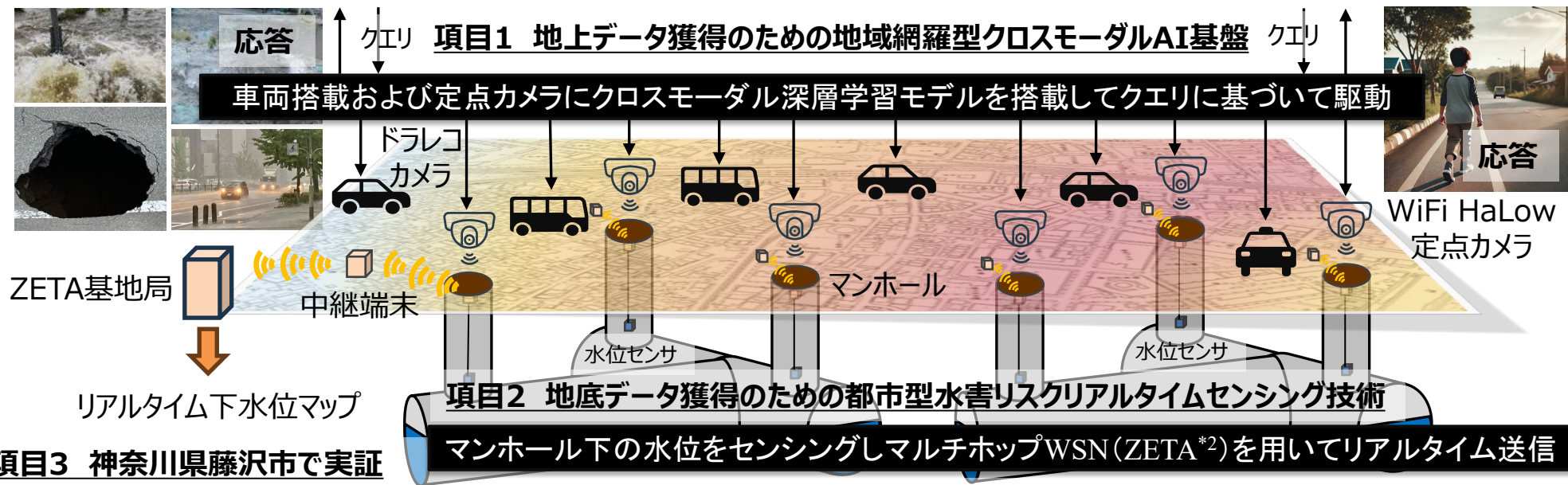
研究概要：自然言語で指定された事物をドライブレコーダ映像等から迅速に発見する車載クロスモーダルAI技術と、広域マルチホップWSN^{*1}通信を用いたマンホール下の下水道水位センシング技術を実用化し、それらで得られるデータを連携して都市型水害リスクのリアルタイムモニタリング基盤技術を確立する。これにより集中豪雨時の内水氾濫対策等業務のデジタル化を推進する。

豪雨時

「藤沢市内のアンダーパスのうち道路が冠水している箇所」
「藤沢市内の道路で大規模に陥没している箇所」

平時

「8歳の男の子が行方不明。身長130cm位、服装はグレーの長袖Tシャツ、カーキ色の長ズボン、灰色のスニーカー。」



^{*1} WSN : wireless sensor networks、無線センサネットワーク、^{*2} ZETA : IoTに適した低消費電力広域ネットワーク規格

【研究開発期間】 令和6年度から令和7年度まで

【受託者】 学校法人慶應義塾 慶應義塾大学（代表研究者）、一般社団法人YRP研究開発推進協会